



藤井寺市観光ボランティアの会 美陵ガイドクラブ会報

〒583-8583 藤井寺市岡1-1-1 (藤井寺市役所 藤井寺市観光協会内)
TEL : 072-939-1086 FAX : 072-936-9777

検索 藤井寺 観光 ボランティア

第 16号 2016年 1月

《 秋季ウォーク 》 10月24日(土)

今回は第14回大阪・奈良歴史街道リレーウォークを兼ねて秋季ウォークが開催されました。

コースは道明寺天満宮から、応神天皇陵古墳、白鳥陵古墳、仁賢天皇陵古墳、仲哀天皇陵古墳、シュラホール、葛井寺、藤本酒造をめぐる8Kmのコースでした。



担当した班のお客様は、大阪住吉・堺・柏原の観光ボランティアの方々が多分くらい参加されていました。

歴史の知識も相当お持ちのようで、熱心に説明を聞いて質問され、理解も良く協力的でした。途中からは、「後ろから車が来ています」等のかけ声も一緒にかけてくださり仲間のガイドが増えた様な気分になりました。

参加者の最高齢は「内緒ですが」と言われた84歳の女性の方で、古室山古墳の山頂へも元気に登られ、最後までペースを守って完歩され、感心しました。最後は軽音楽のバンドの演奏を聞いて心の洗濯をしたあと、藤本酒造でき酒を楽しみ、何度も御礼を言われて元気に帰られました。当日は200名以上の参加者があり、天気も良く、事故もなく、無事に楽しく終わり良かったです。ご参加頂いた皆様ありがとうございました。またご協力いただいた団体・皆様にも感謝申し上げます。(横佐)

《 藤井寺市民まつり(しゅらまつり) 》 9月20日(日)

当会は昨年に引き続き、観光協会と世界遺産推進室のテントを半分お借りして、「古代衣装で写真を撮ろう」「折り紙相撲でとんとんあ・そ・ほ!」「クイズ大会 藤井寺の歴史に挑戦しよう!」「楽しい手品」「紙芝居(藤井寺の民話)」など各テントで内容豊かに参加致しました。

当日はシルバーウィークの初日にふさわしく見事な秋晴れの下、大勢の会員がおおわらわで準備をし、汗を流しながら呼び込み、沢山の方々にご参加頂きました。テントでは不思議な手品に思わず足を止める方、折り紙相撲では、負けた悔しさにもう一回挑戦したり、折り方の紙をもらって満足顔の子供さんたち。古代衣装は60組が参加され、着付け具合を気にされたり、衣装を付けない方も、古墳を背景に古代の雰囲気味わって楽しまれた様子でした。待ち時間には世界遺産推進室の缶バッ作りをお勧めし、相乗効果が有ったかと思えます。

どの出し物も予定の時間を延長するほど大盛況で参加者に用意した記念品も大変好評でした。当会のメンバーも子供の笑い顔大人の笑顔に負けずに楽しそうに触れ合っていたのが印象的でした。また、女性メンバーのパワーを感じました。今年は

「藤井寺駅長お勧めウォーク」と重なり、ガイド等でメンバーが分散しましたが、当会の組織力の強さで乗り越えられました。

来年参加の時は世界遺産登録の朗報を持ってかかりたいと思う一日でした。

ご協力いただきました関係者の皆様ありがとうございました。
(森 直)



《 新モデルコース案内 》

「大坂夏の陣道明寺合戦 又兵衛・幸村ゆかりの地を歩く」を新設しました

土師ノ里駅～長尾街道～石川橋西～後藤又兵衛奮戦跡地～玉手山1号墳(東軍奥田忠次碑)～古戦場跡碑～玉手山3号墳(激戦地)～夏の陣両軍戦死者供養塔～後藤又兵衛碑～玉手山展望台～石川河原～薄田隼人の碑～菅田八幡宮(菅田古戦場跡)～応神天皇陵古墳外濠～古室山古墳～道明寺～道明寺天満宮～道明寺駅

前半は、後藤又兵衛隊が土師ノ里付近に集結し、小松山(玉手山丘陵)に攻め登った道歩き、「小松山の戦い」といわれる激戦地跡の玉手山1号墳、3号墳から両軍戦死者供養塔を経て、玉手山展望台でひとやすみ。

ここからは視界がパノラマ状に開け、両軍が古墳の地形を利用して布陣した様子や世界文化遺産登録を目指す古市古墳群を一望することができます。

後半は、薄田隼人と追撃してきた東軍が激戦した「道明寺蹟(がわら)の戦い」、さらに退却した西軍が真田幸村隊と合流し、石川を越えて攻めてきた東軍の伊達隊と戦った「菅田の戦い」など戦跡の地を巡ります。約10キロの行程です。登り道もあって少しハードですが、合戦の口火が切られた慶長20年(1615)5月6日の午前4時から西軍が菅田あたりを退却する午後4時までの12時間の戦いを、時間をおって歩くことができ、「道明寺合戦」の全容が良くわかります。アップダウンもある健脚向きで、昼食をいただきながら、道明寺合戦の戦跡を存分に楽しんでいただくコースです。詳しくはホームページをご覧ください。(ガイド部)



《 道明寺小学校 あい・うおーく (第6回) 》

10月18日(日)藤井寺ライオンズクラブ、市青少年指導員会及び市教育委員会の主催で道明寺小学校の児童、保護者の皆さんを対象とした「あい・うおーく」が開催され、観光ボランティアの会もガイドとしてお手伝いをさせていただきました。

素晴らしい秋晴れのもと、33名の参加者は土師ノ里支所を出発し、鍋塚古墳～仲姫命陵古墳～古室山古墳～赤面山古墳～大鳥塚古墳～応神天皇陵古墳～三ツ塚古墳をめぐるしました。

あべのハルカスを遠くに望む古室山古墳では、柿を取る道具を使って柿をもいだり、大鳥塚古墳ではドングリを拾ったりして秋の自然に触れながら、古墳について子供たちと色々な話をすることができました。



ふだん、公園だと思って遊んでいたところが古墳だったと気づいたり、航空写真をみて応神天皇陵古墳の大きさにびっくりする等、子供たちにとって、今日のウォークが地域の歴史を知るきっかけになればいいなと思いました。土師ノ里支所に到着した子供たちは、クイズに挑戦。説明箇所での話もよく聞いていたのでしょう、全問正解でしっかりお菓子をゲットできました。あつあつのやきいもをいただきながら、楽しいウォークを終えることができました。(小田島)

《 林地区夏祭り 》 7月25日(土)

昨年に続き夏まつりに参加させて頂きました。伴林氏神社境内では涼しい場所にコーナを設けて頂き、当会のメンバー10数名で時間まで手遊びのリハーサル等行い、かわいいチビ子達が沢山集まってきて椅子席が一杯になり、待ちどろしい様子。手遊び「すいかの名産地」に始まり、紙芝居「あかむくの木」「大蛇ときこり」「うっかりかみなり」と息の合った読み手引き手がバッチリで、皆熱心に聞いてくれました。手遊び「かみなりのパンツ」でお父さんかみなりの新しい赤い衣装がとても似合い、夫婦のかけ合いがおもしろく、参加者一同楽しくゆかいに過ごせた夕べでした。(吉田 知)



《 唐櫃山古墳 現地説明会 》 11月6日(金)



唐櫃山古墳は墳丘の一部が残り、石棺と副葬品が出土した点が、希有で価値の高い古墳のようです。

今回は露出した石棺と円筒埴輪列を目にする貴重な機会に恵まれました。

石棺は家形の形状で、移動等によるものか少し破損の箇所が認められますが、ほぼ原形を留めていることが確認できました。

また曲線状に規則正しく配列された5つの円筒埴輪を、土中に埋まる遺物として初めて見る事ができたのは、何よりの収穫でした。

近々、唐櫃山古墳と周辺が本格的に整備され、古市古墳群をアピールする拠点とされるようです。

今後の我々の活動にとって、たいへん有意義な勉強会でした。(山本)



《 創立 10 周年記念懇親会 》

7月21日、かんぽの宿 大和平群に於いて、57名の出席のもと、和やかに開催されました。

会長の挨拶に続いて、第2代会長の幸田様から藤井寺球場が無くなり街のシンボルをと「井真成」里帰り運動に取り組んだ発足当時の苦労話や、第3代会長中西様からは「マニュアル」作りの問題点や裏話などの後、事務局幹事の「明るく楽しくやりましょう」との発声で乾杯、和気あいあいと話に花が咲きました。観ボラ伝統の「おもてなしの心」と「明るく楽しく」でこれからも頑張ろうと初心に戻った一日でした。(南)



《 10周年記念誌発行にあたって 》

広報部では一昨年11月頃より構想を練り、誌の内容は形式的な物でなく、写真を多用していくつまでも手元に残していただけるものをめざしました。

「会のはじまりから10年め」では活動実績の数々を、「活動の紹介」ではいろいろな取り組みを、「ゆかいななかま」では多くの会員の表情を、そして「10年のあゆみ」として活動の記録を載せさせていただきました。

会員の皆様には貴重な資料や写真の提供をお願いしました。お陰を持ちまして無事に発行することが出来ました。改めましてありがとうございました。(清瀧)



名刺を新しく作りました

「ふじいでらの夢と文化を語り継ぐ」がコンセプト。藤色の背景はふじいでら、古墳のイラストは郷土の“文化”、三つの風は“過去・現在・未来”を象徴しています。(鈴木)



テントを新しく購入しました

《 百舌鳥・古市古墳群世界文化遺産登録実現に向けた今後の方針について 》

世界文化遺産登録推進本部会議が平成 30 年の百舌鳥・古市古墳群のユネスコ世界文化遺産への登録（平成 28 年度国内推薦獲得）をめざしています。以下がその目標の一部です。

1. 平成 28 年 3 月までに「より熟度の高い推薦書原案（日・英）の作成」を期し、登録審査を行う海外専門家にとって、理解しやすい内容にする。そのために文化庁・宮内庁との協議をするとともに、国際専門家会議を開催し、海外専門家の意見を聴取し、英語版の推薦書作成を委託する。

また、翻訳ワーキンググループ（月 1 回程度）の設置で外国語ネイティブの考古学専門家による英語版を年内に作成する。

2. 「緩衝地帯における具体的な規制内容の設定」資産を保護するため「建物の高さ」「建物の形態・意匠」「屋外広告物」の規制を 28 年 1 月までに実施する。

3. 「登録に向けたさらなる情報発信・機運醸成」知名度アップを図るため首都圏をはじめとした（東京駅ほか主要駅）PRの全国展開、そして民間事業や議員連盟との連携を強化する。市民の応援組織「堺市民の会」（27 年 6 月）「もずふる応援隊」（27 年 7 月羽曳野市・藤井寺市）との連携や大阪府民レベルの応援組織設立といった取り組みを行います。登録に向けた今後の行程は、28 年 3 月に新たな推薦書原案（日・英）を提出。推薦書付属資料（映像）の作成、市民・府民の会、推進本部会議との合同シンポジウムを東京で開催する等、文化審議会世界文化遺産特別委員会に働きかけを行い、28 年 7 月の国内推薦獲得を目指します。

我々、藤井寺市観光ボランティアの会は「国造りの象徴」である百舌鳥・古市古墳群の世界文化遺産登録を信じて、ガイドスキルの向上に精励したいと思います。（小野）

古墳のある風景 7

エッセイスト 川上 恵

空玉

空玉(うつろだま)、なんと美しい響きだろう。

ある博物館で初めてこれを見た時、そのあまりの儚さに、言葉の響きに、ひと目で魅せられてしまった。私は言葉にさえ一目ぼれをする。

古墳に眠る王や媛たちの耳を飾った、精緻な作りの耳飾り。空玉とは細い鎖と鎖を繋ぐ小豆くらいの空洞の玉である。多くは金や銀で出来ている。銀製のはくすみ、もはや灰色になっているのが、いかにも哀れでうつろだ。

シャラシャラと微かな音を立てる繊細にして雅な副葬品を、千四、五百年も懐に抱いていたのが小白髪山(こしらがやま)古墳である。尤も出土したのは耳環と空玉だけだが。

清寧天皇は生まれた時から白髪だったそうだ。少年時、天皇は我が容姿にどんなに心を痛み、傷ついていた事だろう。陵の名は残酷にも白髪山古墳。小白髪山古墳はその陪冢である。主に従うように中心軸を同じくして、前方部を西に向けている。名称といい、その位置や大きさといい、忠誠心のようなものが感じられ私は好ましく思う。空玉のついた耳飾りを揺らせていたのは、天皇の白髪を哀しく愛しく思っていた人だろうか……。



清寧天皇陵古墳